

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年11月14日
【四半期会計期間】	第49期第3四半期（自 平成30年 7月 1日 至 平成30年 9月30日）
【会社名】	株式会社東計電算
【英訳名】	Toukei Computer Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 甲田 博康
【本店の所在の場所】	神奈川県川崎市中原区市ノ坪150番地
【電話番号】	044(430)1311(代表)
【事務連絡者氏名】	代表取締役社長執行役員 甲田 英毅
【最寄りの連絡場所】	神奈川県川崎市中原区市ノ坪150番地
【電話番号】	044(430)1311(代表)
【事務連絡者氏名】	代表取締役社長執行役員 甲田 英毅
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第48期 第3四半期連結 累計期間	第49期 第3四半期連結 累計期間	第48期
会計期間	自平成29年 1月1日 至平成29年 9月30日	自平成30年 1月1日 至平成30年 9月30日	自平成29年 1月1日 至平成29年 12月31日
売上高 (千円)	10,014,137	10,874,023	13,378,770
経常利益 (千円)	2,039,108	2,428,443	2,945,326
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	1,407,244	1,676,759	2,024,708
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,697,152	2,418,151	2,853,849
純資産額 (千円)	20,463,703	23,334,836	21,634,469
総資産額 (千円)	24,243,456	28,629,869	26,176,220
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	153.37	182.26	220.57
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	152.78	181.38	219.65
自己資本比率 (%)	84.3	81.4	82.6

回次	第48期 第3四半期連結 会計期間	第49期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成29年 7月1日 至平成29年 9月30日	自平成30年 7月1日 至平成30年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	56.87	73.83

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国発の通商問題や資源価格上昇への懸念により景気後退リスクが意識されるとともに、相次ぐ自然災害の影響を受け、景気は3四半期連続で軟調に推移いたしました。今後も為替や米国発の貿易摩擦の動向が懸念され、景気の先行きに対する見方は慎重になっております。

当業界におきましては、ユーザ企業における設備投資計画は景況感の悪化にもかかわらず依然として高い水準を維持しており、人手不足を背景にした省力化のための投資需要の拡大も相まって堅調に推移しております。具体的には、AIやIoT（Internet of Things）等の最新技術を活用した商品開発やサービスの提供に期待が寄せられております。

このような環境のなかで、当社グループは、システムインテグレータとして、多様化するお客様のニーズにフレキシブルに対応するため、業種別ソリューション、アウトソーシング、ネットワークの3つの重点戦略を掲げ、積極的に営業展開を進めてまいりました。

具体的には、システム運用業務売上の拡大、業種別ERPの促進、人材育成の拡充を重点施策として掲げ、取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高108億74百万円（前年同期比8.6%増）、営業利益21億87百万円（同16.2%増）、経常利益24億28百万円（同19.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益16億76百万円（同19.2%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

情報処理・ソフトウェア開発業務

情報処理・ソフトウェア開発業務としましては、ソフトウェア業務、システム運用業務、ファシリティサービス業務等であります。当第3四半期連結累計期間においては、システム運用業務が堅調に推移するとともにソフトウェア開発業務においても受注が堅調となり、売上高は97億40百万円（前年同期比10.1%増）、営業利益は20億01百万円（同17.1%増）となりました。

機器販売業務

機器販売業務としましては、当社で開発したシステムに必要なハードウェアの販売等であります。当第3四半期連結累計期間においては、販売数量は減少したものの、収益構造が改善したため、売上高は8億66百万円（前年同期比4.3%減）、営業利益は1億33百万円（同11.4%増）となりました。

リース等その他の業務

リース等その他の業務としましては、各種事務用機器のリース、ビル・マンションの不動産賃貸業務であります。当第3四半期連結累計期間においては、主要な取引先である建設業界の受注環境が前期に比べて改善し、売上高は2億66百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は52百万円（同1.7%減）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の金額は、59百万円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,400,000
計	37,400,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	9,350,000	9,350,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	9,350,000	9,350,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成30年7月1日～ 平成30年9月30日	-	9,350,000	-	1,370,150	-	1,302,350

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 150,700	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,194,000	91,940	-
単元未満株式	普通株式 5,300	-	-
発行済株式総数	9,350,000	-	-
総株主の議決権	-	91,940	-

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が310株（議決権の数3個）含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社東計電算	神奈川県川崎市中原区市ノ坪150	150,700	-	150,700	1.61
計	-	150,700	-	150,700	1.61

（注）ストックオプションの行使により、平成30年9月末日時点の自己名義所有株式数は147,757株となっております。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1)退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	-	川村 祐一	平成30年6月26日

(2)異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性8名 女性0名（役員のうち女性の比率0％）

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年1月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,526,395	939,391
受取手形及び売掛金	2,065,823	2,588,012
有価証券	500,988	783,810
商品	11,064	11,440
仕掛品	970,793	867,514
関係会社短期貸付金	-	12,291
繰延税金資産	122,227	203,201
その他	194,513	615,068
貸倒引当金	1,199	249
流動資産合計	5,390,606	6,020,481
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,469,222	2,348,409
機械装置及び運搬具(純額)	36,470	36,309
土地	4,385,990	4,385,990
その他(純額)	538,526	542,184
有形固定資産合計	7,430,210	7,312,895
無形固定資産		
のれん	7,999	6,499
その他	7,131	7,016
無形固定資産合計	15,131	13,516
投資その他の資産		
投資有価証券	13,292,288	15,220,056
退職給付に係る資産	2,414	19,294
その他	45,568	43,640
貸倒引当金	-	14
投資その他の資産合計	13,340,271	15,282,976
固定資産合計	20,785,613	22,609,388
資産合計	26,176,220	28,629,869

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	466,581	478,489
未払法人税等	536,600	400,060
賞与引当金	266,635	544,252
役員賞与引当金	9,600	-
その他	2,150,549	2,430,445
流動負債合計	3,429,967	3,853,247
固定負債		
役員退職慰労引当金	24,894	25,382
繰延税金負債	1,079,876	1,409,389
その他	7,013	7,013
固定負債合計	1,111,783	1,441,785
負債合計	4,541,750	5,295,033
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,370,150	1,370,150
資本剰余金	1,384,969	1,388,227
利益剰余金	16,610,170	17,551,454
自己株式	234,538	221,643
株主資本合計	19,130,751	20,088,188
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,544,554	3,276,892
退職給付に係る調整累計額	59,378	50,338
その他の包括利益累計額合計	2,485,176	3,226,554
新株予約権	18,129	19,675
非支配株主持分	411	418
純資産合計	21,634,469	23,334,836
負債純資産合計	26,176,220	28,629,869

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	10,014,137	10,874,023
売上原価	6,632,496	7,143,347
売上総利益	3,381,640	3,730,676
販売費及び一般管理費	1,499,278	1,543,120
営業利益	1,882,362	2,187,555
営業外収益		
受取利息	32,709	32,201
受取配当金	191,064	231,569
有価証券売却益	56,342	62,144
有価証券償還益	2,062	1,905
貸倒引当金戻入額	0	950
雑収入	15,369	23,812
営業外収益合計	297,549	352,581
営業外費用		
支払利息	64	284
有価証券売却損	134,791	33,190
有価証券償還損	2,630	74,749
雑損失	3,315	3,469
営業外費用合計	140,802	111,693
経常利益	2,039,108	2,428,443
特別損失		
固定資産除却損	1,509	2,056
特別損失合計	1,509	2,056
税金等調整前四半期純利益	2,037,599	2,426,387
法人税、住民税及び事業税	703,187	828,160
法人税等調整額	72,848	78,547
法人税等合計	630,339	749,613
四半期純利益	1,407,259	1,676,773
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	13
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,407,244	1,676,759

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	1,407,259	1,676,773
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	281,244	732,337
退職給付に係る調整額	8,648	9,039
その他の包括利益合計	289,892	741,377
四半期包括利益	1,697,152	2,418,151
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,697,136	2,418,137
非支配株主に係る四半期包括利益	15	13

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年1月1日 至 平成30年9月30日)
減価償却費	309,583千円	333,254千円
のれんの償却額	1,500	1,499

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年3月24日 定時株主総会	普通株式	641,625	70	平成28年12月31日	平成29年3月27日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年3月23日 定時株主総会	普通株式	735,475	80	平成29年12月31日	平成30年3月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	情報処理・ ソフトウェア開発業務	機器販売業 務	リース等そ の他の業務	計	調整額	四半期連結損 益計算書計上 額(注)
売上高						
(1)外部顧客への売上高	8,846,709	905,943	261,484	10,014,137	-	10,014,137
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,620	-	1,822	3,442	(3,442)	-
計	8,848,329	905,943	263,307	10,017,580	(3,442)	10,014,137
セグメント利益	1,709,195	119,755	53,411	1,882,362	-	1,882,362

(注)セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	情報処理・ ソフトウェア開発業務	機器販売業 務	リース等そ の他の業務	計	調整額	四半期連結損 益計算書計上 額(注)
売上高						
(1)外部顧客への売上高	9,740,675	866,709	266,638	10,874,023	-	10,874,023
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,620	-	1,287	2,907	(2,907)	-
計	9,742,295	866,709	267,925	10,876,930	(2,907)	10,874,023
セグメント利益	2,001,576	133,462	52,516	2,187,555	-	2,187,555

(注)セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	153円37銭	182円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	1,407,244	1,676,759
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	1,407,244	1,676,759
普通株式の期中平均株式数(株)	9,175,576	9,199,845
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	152円78銭	181円38銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
(うち支払利息(税額相当額控除後) (千円))	-	-
(うち事務手数料(税額相当額控除後) (千円))	-	-
普通株式増加数(株)	35,074	44,672
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要	-	平成30年3月23日定時株主 総会決議 ストックオプ ション(新株予約権の数800 個)普通株式80,000株。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月14日

株式会社東計電算

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 園田 博之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小泉 淳 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社東計電算の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年1月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社東計電算及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。